

# 令和7年度 第1回川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会

日時 令和7年12月10日(水)

午前10時から

場所 川崎市役所本庁舎復元棟101会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 館長挨拶

### 3 議 事

(1) 令和7年度事業の事業報告及び評価について

(2) 令和7年度今後の事業予定について

(3) その他

### 4 閉 会

#### 【資料】

- 資料1 令和7年度川崎市市民ミュージアムの活動評価について
- 資料2 令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告及び事業予定
  
- 参考資料1 川崎市文化芸術振興会議規則
- 参考資料2 川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会設置要綱

## 川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会委員名簿

○委員

(敬称略：五十音順)

いなにお 稲庭 さわこ 彩和子	独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター 主任研究員	
なかむら 中村 わかな 若菜	はなうた図工室 代表 一般社団法人日本臨床化粧品療法士協会 理事	
ひらい 平井 ひろのり 宏典	和光大学経済経営学部 教授	
ふじしま 藤嶋 としえ 俊會	美術評論家 かわさき市美術展懇談会委員 川崎市文化芸術振興会議委員 (親会議)	部会長

令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告・評価について

1 趣旨

川崎市市民ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)の活動のさらなる充実を図るため、川崎市文化芸術振興会議の部会である市民ミュージアム部会において、令和7年度のミュージアム事業全般に対する評価を実施する。

2 評価の目的

- (1) ミュージアムの事業全般に対して、外部の学識経験者に客観的かつ多様な視点からの評価を受けることで、ミュージアムの課題を明確化し、運営のさらなる充実につなげる。
- (2) 評価を継続実施することで、中長期的なミュージアム運営の改善につなげていく。
- (3) ミュージアムの事業内容・評価を公表することにより、運営の透明性を高め、ミュージアム事業に対する市民の理解を得る。

3 評価者

川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会委員

4 評価方法

令和7年度の実施事業(項目)について、次の(1)及び(2)の評価を実施する。

- (1) ミュージアムによる内部評価(自己点検)として、実施状況・成果等、課題・反省等
- (2) 市民ミュージアム部会委員による外部評価として、意見(評価できる点や課題等)及び評定

※評定 A:十分に達成  
B:概ね達成  
C:達成に至らず

## 令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告及び事業予定

## 目次

1	完了：展覧会・上映会・教育普及（第1回評価対象）	
	(1) 展覧会（企画展）	
	展覧会① むかしのくらしー1950年代の日常ー	1
	(2) 上映会	
	上映会① アニメあらかると！ まわる、つながる、アニメーション	4
	(3) 教育普及	
	教育普及① 修復とその周辺「和綴じ」	7
2	開催中・開催予定：展覧会・上映会・教育普及	
	(1) 展覧会（企画展）	
	展覧会② ハマ川崎一海と陸の狭間をたどるー	9
	展覧会③ 英伸三 映像日月抄	11
	展覧会④ 袴田京太郎 隠された、	13
	展覧会⑤ オンライン 長田奈緒 風景としてのスティルライフ	14
	展覧会⑥ オンライン 多摩川を渡る 六郷橋と六郷渡船	16
	展覧会⑦ 第59回かわさき市美術展	18
	(2) 上映会	
	上映会② 川崎の記録ー神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわりー	20
	上映会③ 音楽とコメディ 奇妙キテレッズ発明家チャーリーのおかしな映画	21
	(3) 教育普及	
	教育普及② 失われた風景よみがえる風景ー多摩区の昭和ー	22
	教育普及③ 史跡めぐり 宮前区初山地域と本遠寺	23
	教育普及④ 社会科教育推進事業	24
	教育普及⑤ 学びのサポートプログラム	25
3	資料等の調査、収集・受入、研究、修復に関する業務	26
4	広報に関する業務	
5	収蔵品の外部利用に関する業務	27
6	ミュージアムショップの運営に関する業務	
7	令和7年度 市民ミュージアム事業費	28

## 令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告及び事業予定

### 1 完了：展覧会・上映会・教育普及（第1回評価対象）

#### (1) 展覧会（企画展）

##### 【展覧会①】

事業名	むかしのくらしー1950年代の日常ー	
会期	令和7年6月21日（土）～8月31日（日） 72日間	
会場	川崎市大山街道ふるさと館	
コンセプト	<p>学習指導要領で小学校3・4年生社会科の学習内容のひとつとされている「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」につながる企画展として、毎年テーマを変え開催しているもの。</p> <p>昨年度は道具の変遷を取り上げたが、今回は昭和20年～30年代前半頃に年代を固定し、その頃に使われていた道具の使い方や生活の工夫・知恵などに焦点をあて、当時の人々のくらしを紹介する。また、106点の展示資料を通して、当時どのような生活をしていたのかや、現代のくらしとの違いなど、学びの機会を創出する。</p> <p>併せて、関連企画として、昔のおもちゃを体験するワークショップや道具を使う講座を開催する。</p>	
ターゲット	小学校3・4年生とその家族、市の歴史に興味がある人	
観覧料	無料	
入館者数	目標：2,500人	実績：3,510人
展示内容	<p>■章構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロローグ 新しい時代から昭和30年代への遡り</li> <li>・第1章 昔のおうちをみてみよう 居間の様子を露出展示で再現し、当時のくらしを感じる空間を作成</li> <li>・第2章 着るもののお手入れ 洗濯機がない頃の洗濯方法、衣類のしつらえ取扱いについて</li> <li>・第3章 台所の様子 ガスコンロなどがない頃の煮炊きについて</li> <li>・第4章 住まいの道具 現在では見られない家具や道具について</li> <li>・体験コーナー 黒電話など</li> </ul> <p>■展示資料（106点：当館所蔵75点、他館貸与31点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館所蔵資料（ちゃぶ台、ラジオ、黒電話ほか）</li> <li>・川崎市大山街道ふるさと館所蔵資料（行灯、やぐらこたつほか）</li> <li>・川崎市中心図書館（写真資料）</li> <li>・川崎市公文書館所蔵資料（写真資料）</li> </ul>	

<p>関連事業</p>	<p>■ 昔のおもちゃで遊ぼう！</p> <p>紙風船、おはじき、ヨーヨー、あやとりなど昔ながらの遊びを体験するワークショップ。</p> <p>日 時：令和7年7月12日(土) 10:00～12:00</p> <p>対 象：全年齢</p> <p>料 金：無料</p> <p>参加者数：目標 <u>30</u> 人、実績 <u>26</u> 人 (申込者数 27 人)</p> <p>□ 夏休みふるさと発見講座「昔の道具を使ってみよう」</p> <p>昔の衣食住についての講座、かつお節削り器、洗濯板とタライを使う体験を実施 (※主催：川崎市大山街道ふるさと館)</p> <p>日 時：令和7年8月9日(土) 10:00～12:00</p> <p>対 象：小学3年生以上</p> <p>料 金：100 円</p> <p>参加者数：目標 <u>30</u> 人、実績 <u>22</u> 人 (申込者数 25 人)</p> <p>■ 「あやかしさがし」</p> <p>川崎市大山街道ふるさと館内を歩きながら、くらしに関連した「あやかし」を探し合言葉を完成させるイベント。</p> <p>日 時：令和7年6月21日(土)～8月31日(日) 10:00～17:00</p> <p>7/12、8/9、8/31 は合言葉の正解者に景品をプレゼント。</p> <p>会 場：川崎市大山街道ふるさと館</p> <p>対 象：全年齢</p> <p>料 金：無料</p> <p>参加者数：42 人 (景品交換者)</p>
<p>主な広報</p>	<p>(1) ポスター・チラシ：市内小学校、こども文化センター図書館など公共施設、川崎信用金庫、JA セレサかわさき、郵便局</p> <p>(2) 新聞折り込み：読売新聞 (中原区・高津区・宮前区地域)</p> <p>(3) 川崎市バス窓上ポスター掲示</p> <p>(4) 高津区役所：デジタルサイネージ、SNS</p> <p>(5) SNS：X、Instagram、Facebook</p> <p>(6) 教育だより、市政だより</p> <p>(7) 高津区役所：デジタルサイネージ、SNS</p> <p>(8) 川崎市 HP トップバナー</p>
<p>効果測定</p>	<p>アンケート回収数 展示：43 件 (紙・web)</p> <p>関連事業：16 件 (紙) ※昔のおもちゃで遊ぼう！</p>
<p>その他</p>	<p>共催：川崎市大山街道ふるさと館</p> <p>図録：なし。子ども向けワークシートを無料配布。</p>

自己評価
<p>&lt;実施状況・成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、昨年度の実績から目標人数を2,500人としたが小学校へのチラシ配布が不可となったこと、また酷暑ということからも厳しくなるのではと想定していたが、高津区民祭が会期中に開催されたこともあり、目標を約1,000人上回ることができた。</li> <li>・広報に関しては、今回新たに川崎市バスの窓上広告を導入し、実際に広告を見て来場した方もいた。また、市のホームページのTOPに告知画像掲載をしたことも一定の効果があったのではないと思われる。</li> <li>・本展では図録を制作せず無料のワークシートの配布を行い、展示を見る際にクイズの答えを探しながら具体的な説明を読んで学びを深められる形とした。</li> <li>・アンケートからも満足度も9割を超えており、黒電話に初めて触ったという世代から、高齢の親と来場し鯉節削りやちゃぶ台などに盛り上がったなど高齢の世代まで楽しんでいただくことができ、同様の展覧会を希望する意見が多く評価も高かった。</li> <li>・今回は関連事業のとして、会場各所に映像であやかしを投影し探すイベントを開催したが、展示と併せて楽しんでいただけた。</li> </ul>
<p>&lt;課題・反省等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連事業の「おもちゃで遊ぼう！」のイベントでは、初見のおもちゃをうまく使うことができない子も見受けられ、種類や体験方法については次回以降検討する必要がある。また、「あやかしさがし」のイベントでは、景品の交換日が限られていたため、参加はしたが景品交換ができない人も多かったとみられ運営方法が課題となった。</li> <li>・来場者数は昨年、一昨年を大幅に上回ることができたが、小学校への紙チラシの配布に代わる周知方法について引き続き検討していく必要がある。</li> <li>・関連事業ではアンケートを約6割から回収することができたが、監視スタッフのいない展示室ではQRコード、紙ともにアンケートの回収数が少なく今後の効果測定のためにもアンケートの回収率UPが課題となった。</li> </ul>

<p>&lt;外部評価&gt;意見（評価できる点や課題など）</p> <p style="text-align: center;">[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]</p>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この館を中心に活動を行っているような、川崎の歴史について活動している方、ボランティアの方によって毎回とは言わずとも、展示解説等、地域連携を通じて観覧者とのコミュニケーションができれば、深い学びやアンケート回収の促進につながるのではないかと。</li> </ul>	

## (2) 上映会

## 【上映会①】

事業名	アニメあらかると！ まわる、つながる、アニメーション	
会 期	令和7年9月6日（土） 14:00～16:00	
会 場	ラゾーナ川崎プラザソル	
コンセプト	<p>1989年にアニメーション作家達と川崎市民が製作した『アニメ あらかると！』にちなみ、国内外のアニメーションを紹介する上映会の第3弾である今回は、インディペンデント・アニメーションと呼ばれる、個人作家が自由な手法で制作したアニメーションを特集する。</p> <p>映画誕生より昔、19世紀に次々と発明された映像装置によって、絵が回り動き出し生まれたアニメーションは、以来、人々を魅了し続けている。今回は、日本のアニメーションを芸術的に高めた作家から現在活躍中の作家まで、アニメーション誕生の源流に続いている、驚きにあふれた作品の数々をスクリーンで紹介するもの。</p>	
ターゲット	映画、アニメーション、映像制作に興味がある人	
観覧料	一般600円、小中高生400円	
来場者数	目標：150人	実績：96人
上映作品	<p>13作品（収蔵品4作品、借用品9作品）</p> <p>(1) クリョウジ 『人間動物園』（1961年/3分/16mm上映） 『世界はわがもの』（1969年/10分/デジタル上映）</p> <p>(2) 福島治 『とびら』（1971年/5分/16mm上映）</p> <p>(3) 古川タク 『驚き盤』（1975年/5分/16mm上映）</p> <p>(4) 岩井俊雄 『THIS IS A COPY, NEXT IS THE ORIGINAL.』 (1982年/3分/デジタル上映) 『えんそく』（1984年/1分/デジタル上映）</p> <p>(5) IKIF 『石化(一)』（1982年/5分/16mm上映） 『(二)海の底』（1985年/3分/16mm上映）</p> <p>(6) 浅野優子 『蟻の生活』（1994年/14分/16mm上映）</p> <p>(7) 水江未来 『WONDER』（2014年/8分/デジタル上映）</p> <p>(8) 工藤雅 『差異と反復とコーヒー』（2009年/4分/デジタル上映）</p> <p>(9) 許岑竹 『Cotton Sugar』（2009年/4分/16mm上映）</p> <p>(10) 『アニメあ・ら・かると』（1989年 演出：福島治 10分/35mm/カラー）</p>	
関連事業	<p>■さわれるシネマ 35mm映画フィルムでショートアニメ制作ワークショップ</p> <p>フィルムに直接絵を描く、落ち葉を貼り付ける、絵具で染めるなど加工を試し短編アニメーションを制作。制作した作品は上映会「アニメあらかると」で公開。</p> <p>日 時：令和7年7月21日(月・祝) /8月2日(土) 2日間 10:30～16:00</p> <p>対 象：中学生以上</p> <p>料 金：1,000円</p> <p>講 師：許岑竹、工藤雅（いずれも出品作家）</p>	

	会 場：幸市民館 参加者数：目標 20 人、実績 17 人
主な広報	(1) ポスター・チラシ：映画館、アート系施設、川崎信用金庫、JA セレサ川崎、郵便局、公共施設等 (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 過去の上映会参加者、WS 参加者 (5) 川崎市 HP トップバナー
効果測定	アンケート回収数：上映会 46 件(紙・web)、関連事業 15 件(紙)
その他	

自己評価	
<実施状況・成果>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は上映した作品の作家が来場し作品解説を行なったが、これだけの世代も違う作家が一同に集まる機会は大変珍しい機会となった。また、作家自身が制作された当時の状況や作品への思いなどのほか、今回同席している他の作家に自身が受けた影響などを解説することにより、作品への理解やアニメーションの時代の変遷などを知っていただくことができた。</li> <li>・インディペンデント作家の歴史を追えたことは、これまでの活動と今後をつなげる意味においても意義深かったと思われる。</li> <li>・「アニメあらかると」の上映会に毎回来場されている方も見られ、毎回のテーマを持たせたショートフィルムのシリーズが定着しつつあると思われる。</li> <li>・関連事業のさわれるシネマについては、大人向けのワークショップとして2日間の連続講座で実施したが、身近な素材での制作を紹介したことから、1日目と2日目のインターバルに自宅で細部までこだわりを持って作品制作に臨んだ参加者も多かった。制作した作品は、当日上映を行い、W自身で手回し映写機を操作し上映したが、上映会ではデジタル機器を使用しての上映となり、コマ送りのスピードの違いなども興味深く受け止めてもらうことができた。</li> </ul>	
<課題・反省等>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前申込を告知していたため、申込方法に不便を感じ参加をしなかった人もいたように思われる。また、当日券での入場が3割ほどあったことを鑑み、今後は当日券ありきでの告知を行う工夫が必要だと考えられる。</li> </ul>	

<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味深く、貴重な機会で、他のミュージアムができない取り組み。</li> <li>・魅力的な企画である一方、広報の課題はあると感じた。</li> <li>・事前申込み制について、SNS からののか、ポスターの QR からののか、という申込み時の流入率も資料に記載していただきたい。参加者の7割程度に当たる事前申込みがどこから来ているのか、</li> </ul>	

ということが確認できれば、振り返りがアンケート結果のみに頼ることもなくなり、情報が取得できてよいと思う。

- ・事前申込みについては、有料コンテンツかつ座席に限りがあることなので理解はするが、参加の機会創出に影響が出るのがもったいない。当日券ベースとは言わずとも、直前まで迷っている人を受け入れる余地があったほうが良いと思う。当日残席がなく入れない可能性があることも明示しつつ、当日も受け入れる体制を。また、コンテンツによって来場者、興味関心がある方の情報を仕入れるルートが異なると思う。例えば、今回のような映像が好きな人に広報するには、難しいとは思いますが、映画の前の広告で次に行くものを決める人もいる。コンテンツに関連するルートで広報できるとよいと思う。SNSでのハッシュタグのつけ方1つでも変わるところでもある。普通の展覧会の広報手法とあまり変わらないと感じたので、今後検討してみしてほしい。

(3) 教育普及事業

【教育普及①】

事業名	修復とその周辺「和綴じ」一つくってみよう！にほんのほんー	
会 期	令和7年10月4日（土）13:30～15:30	
会 場	川崎市生活文化会館てくのかわさき 第1・第2研修室	
コンセプト	市民ミュージアムの被災から6年が経過し、全国の博物館学芸員や関係者の協力のもと被災収蔵品の館内レスキューや修復家による修復が進んでいるが、一般の市民が参加は難しく、さらに被災から月日が経過したことで、市民ミュージアムの被災への関心も薄れつつある。そこで、「修復とその周辺」をテーマにワークショップを実施し、直接的な修復の道具や技術を伝えることだけでなく、関連するテーマ（今回は和綴じ）を取り上げながら、市民の修復やレスキューへの関心を喚起することを目的とする。	
ターゲット	文化財レスキューや修復、創作活動への関心が高い家族	
参加料	300円	
参加者数	目標： <u>30</u> 人	実績： <u>27</u> 人（応募数 <u>47</u> 人：抽選）
内 容	市民ミュージアムの役割、被災、レスキューなどについて説明した後、川崎市出身であり宮内庁書陵部修補係の三浦修子氏、佐々木紫乃氏、同部修補師長である篠原宏氏を講師に、書陵部での修復業務について紹介、併せて日本のむかしの本の作り方である「和綴じ」をについて解説し、むかしの本の修復方法に触れながら一人一冊和綴じ本を制作する。 対 象：小学3年生以上 講 師： 三浦修子、佐々木紫乃、篠原宏（いずれも宮内庁書陵部）	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：わくわくプラザ、こども文化センター等公共施設 川崎信用金庫、郵便局ほか (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) かわさきイベントアプリ (4) 市政だよりほか	
効果測定	アンケート回収数 <u>27</u> 件（紙）	

自己評価
<実施状況・成果>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修復というテーマであったことから、十分な時間をとって市民ミュージアムの役割や、被災した後の活動、レスキュー活動について説明を行い市民ミュージアム自体への理解を深めることができたと思われる。</li> <li>・宮内庁の職員の方に講師をしていただき、普段の業務や使用されてきた道具の説明や体験をすることにより、日本の歴史的書物の保存や長きにわたり実施されてきた修復という作業にも多くの参加者に関心を持ってもらうことができた。</li> </ul>

・参加理由が住居の近隣の会場だったという方も多かったが、WSの内容についてすべての方が満足したという結果を残すことができた。

<課題・反省等>

・今回は家族での申し込みを対象としていたが、大人だけで申込を希望する問い合わせも複数件あり、対象の設定と告知方法について検討が必要と思われる。

<外部評価>意見（評価できる点や課題など）

[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A

- ・300円でしっかりした和綴じを作成できるならよいと思う。
- ・委員としての情報収集について、取得できていない情報が多い。
- ・オンラインに情報掲載するだけでなく、委員あてにいただければと思う。現場に行ったうえで意見を出すことも重要と思う。

## 2 開催中または今後開催予定の展覧会・上映会・教育普及事業

### (1) 展覧会

#### 【展覧会②】

事業名	ハマ川崎—海と陸の狭間をたどる—	
会 期	令和7年10月10日（金）～12月11日（木） 54日間※月曜休館	
会 場	東海道かわさき宿交流館	
コンセプト	近代以降、川崎市は臨海部の埋め立てが進み、海と接するハマ川崎に次々に工場が建設され、工業都市としての川崎を象徴する景観を形作ってきた。本展では、川崎市にとって重要な割には埋もれがちな海と陸との境界の変遷をたどり、どのように現在の姿になったのか近代都市川崎の来歴を明らかにし、現代の南部地域の生活基盤について紹介することを目的とする。 また、関連企画として講演会やアートコミュニケーション共創拠点事業と連携した Museum+205 を会場とする展示など各種イベントを実施する。	
ターゲット	市の歴史に興味がある人、高齢者層	
観覧料	無料	
入館者数	目標： 3,000 人	実績： ____人
展示内容	<p>■章構成</p> <p>第1章 近代以前</p> <p>第2章 明治大正時代</p> <p>第3章 埋め立てと工業化</p> <p>第4章 ハマ川崎の諸相</p> <p>第5章 ハマ川崎への道</p> <p>■展示資料</p> <p>（約50点 当館所蔵及び個人から借用）</p> <p>多摩川河口域海岸町人普請絵図、川崎大師平間寺図絵ほか</p>	
関連事業	<p>■ オンライン史跡めぐり「探求ハマ川崎」</p> <p>海と陸の狭間、「ハマ川崎」の痕跡をオンラインでめぐる。</p> <p>配信期間：令和7年10月3日（金）～令和8年3月31日（火）</p> <p>講 師：高嶋修一（青山学院大学経済学部教授）、鈴木勇一郎（当館学芸員）</p> <p>■ 講演会「ハマ川崎の来歴」</p> <p>ハマ川崎の歴史について、展示資料を交え紹介。</p> <p>開 催 日：令和7年10月25日（土）14:00～16:00</p> <p>会 場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室</p> <p>料 金：無料</p> <p>定 員：40名（申込多数の場合は抽選）</p> <p>講 師：鈴木勇一郎（当館学芸員）</p> <p>■ 講演会「ハマ川崎とツルミを走った貨車・電車」</p> <p>かつてハマ川崎を走っていた、さまざまな鉄道や軌道の歴史について講演。</p>	

	<p>開催日：令和7年11月29日（土）14:00～16:00  会場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室  料金：無料  定員：40名（申込多数の場合は抽選）  講師：岡田直（元横浜都市発展記念館主任調査研究員）</p> <p>■ ① 講座「一家庭に眠るビデオテープやフィルムを捨てないで！  ー視聴覚資料の取扱い」</p> <p>② 上映会「川崎の記録ー神奈川ニュースでみる、川崎のうつりかわりー」  家庭にあるビデオテープやフィルムなどの取り扱いなど視聴覚資料に関する講座を実施。また同日午後には、ハマ川崎に関連した記録映画や「神奈川ニュース」を学芸員が解説しながら、上映を行う。</p> <p>開催日：令和7年12月6日（土）①10:30～12:00、②13:30分～15:00  会場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室  料金：無料  定員：①30名（申込多数の場合は抽選）、②60名  講師：①郷田真理子（当館学芸員）、②鈴木勇一郎（当館学芸員）</p> <p>■ 展示「写真の中のかわさき 第2弾 変わりゆくハマ川崎」  川崎市写真コンクールの作品から川崎臨海部の景観や生活に焦点を当てた写真を展示し、かつての臨海部の姿を紹介。</p> <p>会期：令和7年11月1日（土）～12月21日（日） 9時～21時  会場：Museum+205（川崎市役所本庁舎復元棟2階）  観覧料：無料  主催：川崎市、川崎市市民ミュージアム、  国立アトリサートセンター、東京藝術大学</p>
主な広報	<p>(1) ポスター・チラシ：公共施設大学等、川崎信用金庫、セレサ川崎、郵便局  (2) SNS：X、Instagram、Facebook  (3) 市政だより  (4) 新聞折込  (5) 川崎市 HP TOP バナー</p>
効果測定	アンケート回収数 _____ 件（紙・web）
その他	<p>共催：東海道かわさき宿交流館  図録：1,200円（A4判）  ワークシート（A5判）</p>

【展覧会③】

事業名	英伸三 映像日月抄 そのときのあのこと あのときのそのひと	
会 期	令和7年11月8日（土）～12月21日（日） 38日間※火曜休室	
会 場	向ヶ丘遊園中和ビル2階（多摩区登戸2735）	
コンセプト	<p>英伸三は1960年代から写真家として活動し、戦後の繁栄と発展の裏側に潜むものを丁寧に読み解くことで、諸問題が複雑に絡み合う日本社会の姿を浮き彫りにする作品を制作してきた。</p> <p>本展では、長年にわたり地方の農村が抱える問題を記録した作品のほか、沖縄や九州から上京する少年少女の姿をとらえたシリーズ、視覚障がい者の教育現場と就職に迫った初期作品などその時代を特徴づける社会性の高いテーマの作品を通じ、半世紀を経てもなお、そこに写された人々の存在が今日の私たちの社会とどのように結びつきどのような意味を持つのか向き合うことを目的とする。</p>	
ターゲット	美術・写真に興味がある人	
観覧料	無料	
入館者数	目標：4,000人	実績：_____人
内容	<p>■ 展示作品 約60点（収蔵作品14点、作家収蔵作品46点）</p> <p>■ 展示構成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 沖縄や九州からの集団就職で状況する若者たちの姿を追った「集団疎開の若者」</li> <li>② 地方の農村が抱える問題を扱った「農村」</li> <li>③ 陸上自衛隊北富士演習場の基地と地元住民の闘争を追った「富士山」</li> <li>④ 町工場の鉄材をモチーフにした「鉄彩百景」</li> <li>⑤ 全国の農村を巡回する旅芸人「劇団ふるさときゃらばん」</li> <li>⑥ 横須賀の中学校の大合唱を撮影した「1700人の交響詩」</li> <li>⑦ 視覚障がい者の教育現場や就職の実態を追った「盲人ーその閉ざされた社会」</li> </ol>	
関連事業	<p>■ アーティストトーク「私と彼らの映像日月抄」</p> <p>出品作家英伸三氏による作品紹介。</p> <p>開 催 日：令和7年11月9日（日）15:00～16:00</p> <p>会 場：向ヶ丘遊園中和ビル2階</p> <p>料 金：無料</p> <p>講 師：英 伸三</p> <p>※定員なし、申込不要</p> <p>■ 対話型鑑賞会「まなざしの泉 じっくり見る、語る、聞く。」</p> <p>写真に写された人々や景色についてグループで話す対話型鑑賞ワークショップ。</p> <p>開 催 日：令和7年11月29日（土）17:00～19:00</p> <p>会 場：向ヶ丘遊園中和ビル2階</p>	

	<p>料 金：無料  対 象：18歳以上  定 員：16名  講 師：小倉 快子</p> <p>■ アートカードワークショップ  「SEA PHOTO CARD 何が見える？いろいろな海を見つけてみよう！」  海の写真のアートカードを使用したワークショップ。  開 催 日：令和7年11月30日（日）14:00～16:00  会 場：多摩市民館実習室  料 金：無料  対 象：小学校5年生以上  定 員：24名  講 師：小倉 快子</p> <p>■ 講座「英伸三の写真 その表現の連なりと深淵」  学芸員による英伸三の作品と活動を紹介する講座  開 催 日：令和7年12月5日（金）14:00～15:30  会 場：宮前区役所向丘出張所2階会議室  料 金：無料  講 師：中野可南子（当館学芸員）  ※定員なし、申込不要。</p> <p>■ 学芸員による展示解説  開 催 日：令和7年12月13日（土）16:00～16:30  会 場：向ヶ丘遊園中和ビル2階  料 金：無料  講 師：中野可南子（当館学芸員）  ※定員なし、申込不要。</p>
主な広報	<p>(1) ポスター・チラシ：首都圏の美術館、博物館、ギャラリー、公共施設、川崎信用金庫、セレサ川崎、郵便局  (2) SNS：X、Instagram、Facebook  (3) 市政だより  (4) 新聞折込  (5) 川崎市 HP TOP バナー  (6) 神奈川新聞「みんなの広場」</p>
効果測定	アンケート回収数 展示：___件（紙・web）、関連事業：___件
その他	<p>協力：日鉄興和不動産株式会社  図録：1,800円（B5判 80頁）</p>

【展覧会④】

事業名	袴田京太郎 隠された、	
会 期	令和8年3月6日（金）～3月29日（日） 24日間	
会 場	川崎市役所本庁舎復元等 Museum+205	
コンセプト	被災後展示設備がなく実会場での収蔵作品の展示が難しい状況にあることから、市内在住の彫刻家、袴田京太郎氏の協力のもと、作品を展示し市民への美術鑑賞の場を創出することを目的とする。また、実会場での美術展であることを活用し、関連イベントとして視覚障害者との鑑賞事業を実施する。	
ターゲット	現代アートの愛好者、市役所を訪問する市民等	
観覧料	無料	
入館者数	目標： 800人	実績： _____人
展示内容	<p>■展示作品</p> <p>彫刻：袴田京太郎、圓鏝勝三 4点以上</p>	
関連事業	<p>■ 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ</p> <p>開 催 日：令和8年3月22日（日）午前、午後の2回</p> <p>会 場：川崎市役所本庁舎復元等 Museum+205</p> <p>料 金：無料</p> <p>定 員：14名（各回7名）</p> <p>講 師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ</p>	
主な広報	<p>(1) ポスター・チラシ：美術系大学、美術館、カフェ、公共施設、川崎信用金庫、セレサ川崎、郵便局</p> <p>(2) SNS：X、Instagram、Facebook</p> <p>(3) 市政だより</p> <p>(4) 川崎市HP TOP バナー</p>	
効果測定	アンケート回収数 展示：_____件（紙・web）、関連事業： _____件	
その他	記録集：500円（B5判）	

【展覧会⑤】

事業名	オンライン 長田奈緒 風景としてのステイルライフ	
会 期	令和7年9月1日（月）～令和8年3月31日（火） 212日間	
会 場	市民ミュージアムのwebサイト上に開設した展示空間 「the 3rd Area of “C” —3つめのミュージアム—」にて公開	
コンセプト	川崎市出身の長田奈緒氏は、身近な物事の表層を版画の技術を用いて別の素材に刷り、それを空間に再構成することで作品を制作している。 本展では、長田氏の作品を鑑賞する機会を設け、市民をはじめ多くの方が川崎市ゆかりの作家による美術作品を鑑賞する場を創出する。 また、作品の画像、Museum+205における作品制作の様子、作家のインタビューを掲載するほか、長田氏の指導のもと、作品制作を行うワークショップを実施する。	
ターゲット	川崎市市民、現代美術に興味がある方	
視聴料	無料	
アクセス数	目標：4,000PV	実績： _____PV
展示内容	<p>■ 展示構成</p> <p>Chapter1 静物をみる Chapter2 痕跡をみる Chapter3 ステイルライフをみつける 作家インタビュー</p> <p>■ 展示資料（約30点）</p> <p>Carrier Bag (KOBAYA), as a Landscape ほか</p>	
関連事業	<p>■ 作品設置</p> <p>作家による作品制作過程の写真・動画をオンライン展に掲載するとともに、作品とキャプションをMuseum+205の窓ガラスに設置。 期 間：令和7年7月28日（月）～10月18日（土） 会 場：本庁舎復元棟 Museum+205</p> <p>■ ワークショップ 「うつして、おいて、みる」</p> <p>物をスキャナーで読み取り、会場周辺に作品を設置してみることで、作家が行っている制作の一部を体験する。 日 時：令和7年10月18日（土） 13:00～15:00 料 金：500円 会 場：本庁舎復元棟 Museum+205 ほか 講 師：長田奈緒 定 員：10名程度</p>	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：美術系大学、美術予備校、絵画教室、美術館（全国）、ギャラリー、画材屋、川崎信用金庫、JA セレサかわさき、郵便局、公共施設等	

	(2) SNS : X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 川崎市 HP TOP バナー
効果測定	アンケート回収数 展示_____件 (web)、関連事業_____数 (紙・web)

【展覧会⑥】

事業名	オンライン 多摩川を渡る 六郷橋と六郷渡船	
会 期	令和7年12月12日(金)～ 令和8年3月31日(火) 110日間	
会 場	市民ミュージアムのwebサイト上に開設した展示空間 「the 3rd Area of “C” —3つめのミュージアム—」にて公開	
コンセプト	<p>川崎を流れる多摩川は、川崎の土地を潤し、人々に親しまれてきた。その一方で氾濫をくり返す暴れ川でもあり、下流に架かる六郷橋は江戸時代に幾度となく流失した歴史がある。貞享5年(1688)以降は渡し船に切り替わるが、明治に入ると架橋の気運が高まり、約180年ぶりに六郷の渡しに橋が架かることになった。その時、渡船場はどうなったのか。本展では近世から近代における六郷橋と六郷渡船に焦点を当て、当時の人々の姿を紹介する。</p> <p>また、川崎を流れる多摩川流域の古代について、地名や考古学、文献史学の研究者を招聘し連続講座を開講する。</p>	
ターゲット	川崎、多摩川の歴史に興味がある人	
視聴料	無料	
アクセス数	目標：4,000PV	実績：_____PV
展示内容	<p>■展示資料(約50点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎宿森家文書(川崎市市民ミュージアム蔵)</li> <li>・鈴木家文書、石川家文書(大田区立郷土博物館蔵) ほか</li> </ul> <p>■章構成</p> <p>プロローグ 多摩川と六郷大橋</p> <p>第1章 六郷の渡し</p> <p>第2章 佐内宿と川崎宿の人々</p> <p>第3章 近代の六郷渡河</p> <p>エピローグ 流されない橋</p>	
関連事業	<p>■連続講座「多摩河伯(たまがわ) 古代への眼差し —地名・墓・文献から考える—」</p> <p>川崎を流れる多摩川流域の古代について、地名や考古学、文献史学から考察する連続講座。</p> <p>講座1「交流の十字路 —多摩川の地域的な特性を交通と境界性から探る—」</p> <p>日 時：令和8年1月17日(土) 13:30～15:30</p> <p>講 師：谷口榮(葛飾区文化的景観専門調査員)</p> <p>講座2「橘樹・荏原郡域の古代墓制について —横穴墓から火葬墓へ—」</p> <p>日 時：令和8年1月24日(土) 10:00～12:00</p> <p>講 師：松崎元樹(東京都埋蔵文化財センター調査研究員)</p> <p>講座3「文献からみる多摩川下流域の世界」</p> <p>日 時：令和8年1月24日(土) 13:30～15:30</p> <p>講 師：堀川徹(星槎大学共生科学部准教授)</p>	

	<p><b>【共通】</b></p> <p>料 金：無料</p> <p>会 場：川崎市大山街道ふるさと館</p> <p>定 員：各回 40 名</p> <p>■ レクチャー&amp;ワークショップ「わたる つくる たどる橋」</p> <p>「多摩川をわたる」人々の姿や風景についてレクチャー後、木材や石を使い橋や川辺の情景のジオラマを作成。</p> <p>日 時：令和 8 年 2 月 8 日(日) 13:00～15:00</p> <p>料 金：1 人 300 円</p> <p>会 場：ニヶ領せせらぎ館</p> <p>講 師：古畑健太郎・村尾理枝（ムラハタワークス）、 松本知佳（当館学芸員）</p> <p>定 員：15 名</p> <p>対 象：高校生以上</p>
<p>主な広報</p>	<p>(1) ポスター・チラシ：市内及び対岸地域の施設、日本河川協会、川崎信用金庫、JA セレサかわさき、郵便局、</p> <p>(2) SNS：X、Instagram、Facebook</p> <p>(3) 市政だより</p> <p>(4) 川崎市 HP TOP バナー</p>
<p>効果測定</p>	<p>アンケート回収数 展示 _____ 件 (web)、関連事業 _____ 数 (紙・web)</p>

【展覧会⑦】

事業名	第 59 回かわさき市美術展																															
会 期	入選作品展 令和 8 年 2 月 19 日 (木) ～2 月 25 日 (木) 入賞作品展 令和 8 年 2 月 27 日 (金) ～3 月 7 日 (土) 表彰式 令和 8 年 3 月 7 日 (土)																															
会 場	ミュージア川崎シンフォニーホール 企画展示室																															
コンセプト	かわさき市美術展は、昭和 42 年 (1967) から行われている、川崎市の芸術文化活動の振興を目的とした展覧会である。本展では、川崎市に在住、あるいは市内で制作活動をしている人々から作品を公募し、審査の上、入賞及び入選作品を展示することにより、市民が文化芸術活動に主体的に参加し、また鑑賞する機会を広く提供することを目的とする。また今回は第 60 回かわさき市美術展のプレ企画として、過去の最優秀賞受賞者のインタビュー動画の配信や、今後の応募対象者となっていく小学生を対象としたワークショップを開催する。																															
ターゲット	平面・彫刻・工芸・書・写真作品などに興味がある人。																															
観覧料	無料 (応募は有料)																															
入館者数	目標： 1,800 人	実績： _____人																														
内 容	<p>■部門</p> <p>①平面、②彫刻・立体造形、③工芸、④写真、⑤書、⑥中高生 の 6 部門</p> <p>■応募料</p> <p>(1) 一 般：1 点 2,500 円、2 点 4,000 円</p> <p>※障害者手帳等を提示した応募者に対する減額を実施 (減額後の応募料 1 点 1,300 円、2 点 2,000 円)</p> <p>なお、審査については全応募作品同じ条件のもとで行い、展示の際も障害の有無についての記載等はしない。</p> <p>(2) 中高生：無料</p> <p>■表彰</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">対象</th> <th style="width: 30%;">賞</th> <th style="width: 20%;">点数</th> <th style="width: 35%;">授与品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>最優秀賞</td> <td>6 部門を通じて 1 点</td> <td>賞状、賞賜金 30 万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">一般</td> <td>優秀賞</td> <td>5 部門を通じて 4 点</td> <td>賞状、賞賜金 10 万円</td> </tr> <tr> <td>奨励賞</td> <td>5 部門を通じて 8 点</td> <td>賞状、賞賜金 1 万円</td> </tr> <tr> <td>審査員特別賞</td> <td>5 部門を通じて若干数</td> <td>賞状</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中高生</td> <td>コミュゼ川崎大賞</td> <td>1 点</td> <td>賞状、副賞</td> </tr> <tr> <td>優秀賞</td> <td>5 点</td> <td>賞状、副賞</td> </tr> <tr> <td>入選者</td> <td>市民賞 (来場者投票)</td> <td>6 部門それぞれ 1 点</td> <td>賞状</td> </tr> </tbody> </table> <p>※中高生副賞は図書カード</p>			対象	賞	点数	授与品	全体	最優秀賞	6 部門を通じて 1 点	賞状、賞賜金 30 万円	一般	優秀賞	5 部門を通じて 4 点	賞状、賞賜金 10 万円	奨励賞	5 部門を通じて 8 点	賞状、賞賜金 1 万円	審査員特別賞	5 部門を通じて若干数	賞状	中高生	コミュゼ川崎大賞	1 点	賞状、副賞	優秀賞	5 点	賞状、副賞	入選者	市民賞 (来場者投票)	6 部門それぞれ 1 点	賞状
対象	賞	点数	授与品																													
全体	最優秀賞	6 部門を通じて 1 点	賞状、賞賜金 30 万円																													
一般	優秀賞	5 部門を通じて 4 点	賞状、賞賜金 10 万円																													
	奨励賞	5 部門を通じて 8 点	賞状、賞賜金 1 万円																													
	審査員特別賞	5 部門を通じて若干数	賞状																													
中高生	コミュゼ川崎大賞	1 点	賞状、副賞																													
	優秀賞	5 点	賞状、副賞																													
入選者	市民賞 (来場者投票)	6 部門それぞれ 1 点	賞状																													

	<p>【参考】 近年の応募・入選入賞作品数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>応募者数</th> <th>応募作品数</th> <th>入選入賞者数</th> <th>入選入賞作品数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 56 回 (R4)</td> <td>273</td> <td>351</td> <td>120</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>第 57 回 (R5)</td> <td>273</td> <td>367</td> <td>122</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>第 58 回 (R6)</td> <td>276</td> <td>376</td> <td>128</td> <td>131</td> </tr> </tbody> </table>		応募者数	応募作品数	入選入賞者数	入選入賞作品数	第 56 回 (R4)	273	351	120	123	第 57 回 (R5)	273	367	122	124	第 58 回 (R6)	276	376	128	131
	応募者数	応募作品数	入選入賞者数	入選入賞作品数																	
第 56 回 (R4)	273	351	120	123																	
第 57 回 (R5)	273	367	122	124																	
第 58 回 (R6)	276	376	128	131																	
関連事業	<p>■ 過去最優秀賞受賞者インタビュー動画の配信</p> <p>過去の最優秀賞受賞者に日頃の制作活動やかわさき市美術展との関わり、受賞後のあゆみなどをインタビューした動画を次年度末までオンラインで配信。</p> <p>出 演：渋谷武美（第 6 回）、井上麦（第 13 回）、鷹野健（第 37 回）</p> <p>配信期間：令和 7 年 10 月 1 日（水）～令和 9 年 3 月 31 日（水）</p> <p>■ 肥沼守と描く動物フレスコ画ワークショップ</p> <p>今後かわさき市美術展への応募対象者となる小学生に向けた、フレスコ画の技法を用いた平面作品制作のワークショップ。</p> <p>日 時：令和 7 年 11 月 2 日（日） 13:00～16:00</p> <p>場 所：カルッツかわさき</p> <p>講 師：肥沼守（第 34 回最優秀賞受賞者）</p>																				
主な広報	<p>(1) ポスター・チラシ：セブンイレブン、美術教室、工房、市内公共施設、昨年度応募者ほか</p> <p>(2) かわさき FM（ラジオ）</p> <p>(3) SNS：X、Instagram、Facebook</p> <p>(4) 教育だより、市政だよりほか</p> <p>(5) 川崎市 HP TOP バナー</p>																				
効果測定	アンケート回収数 _____ 件（紙・web）、関連事業 <u> 9 </u> 件（紙）																				
その他	<p>■かわさき市美術展懇談会の設置（学識経験者等から意見聴取）</p> <p>■協賛：川崎信用金庫、セレサ川崎農業協同組合</p> <p>■後援：川崎市教育委員会、かわさき FM（79.1MHz）</p> <p>■入選・入賞作品集：無料（B5 判 16 頁）</p>																				

## (2) 上映会

## 【上映会②】

事業名	川崎の記録ー神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわりー	
会 期	多摩区編：令和7年11月16日（日）、ハマ川崎編：令和7年12月6日（土）	
会 場	多摩区編：多摩市民館、ハマ川崎編：東海道川崎宿交流館	
コンセプト	レスキュー活動を通してデジタル化された『神奈川ニュース』より、各区のニュースを選定し上映。関連の展示と期間をあわせて開催し、ゲストや講師と共に映像に記録された川崎市の移り変わりを辿り、市民の記憶を共有する機会を創出する。	
ターゲット	川崎の地域映像・歴史に興味のある人、映像当時を知る高齢者	
観覧料	無料	
来場者数	目標：多摩区編 60人 ハマ川崎編 60人	実績：多摩区編 _____人 ハマ川崎編 _____人
内 容	<p>■多摩区編  (写真展「失われた風景よみがえる風景ー多摩区の昭和ー」関連事業)  神奈川県内の施策と事業をPRするために制作されたニュース映画「神奈川ニュース」から、多摩区に関連したニュースを中心に上映。写真展に協力いただいた稲田郷土史会の方々と当館学芸員による座談会も併せて実施。  上映作品：川崎の酒づくり(昭和54年) ほか  登壇：稲田郷土史会、松本知佳(当館学芸員)</p> <p>■ハマ川崎編(企画展「ハマ川崎ー海と陸の狭間をたどるー」関連事業)  神奈川県内の施策と事業をPRするために制作されたニュース映画「神奈川ニュース」から、川崎区臨海部の開発による土地やくらしの変化を捉えたニュースを中心に上映。  上映作品：東扇島埋立工事記録ーその1ー(昭和50年) ほか  解説：鈴木勇一郎(当館学芸員)</p>	
関連事業	<p>■ー家庭に眠るビデオテープやフィルムを捨てないで！ー  視聴覚資料の取扱い講座  自宅に残るフィルムやテープの取扱いや保管方法、デジタル化について講義。  日 時：各上映会同日 10:30～12:00  定 員：各日30名  講 師：郷田真理子(当館映画・映像スタッフ)</p>	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：市内公共施設、 (2) SNS：X、Instagram、Facebook	
効果測定	アンケート回収数 【多摩区編】 _____件(紙)、関連事業 _____件(紙) 【ハマ川崎編】 _____件(紙)、関連事業 _____件(紙)	
その他	【多摩区編】 協力：稲田郷土史会	

【上映会③】

事業名	音楽とコメディ 奇妙キテレツ 発明家チャーリーのおかしな映画	
会 期	令和8年3月14日（土）	
会 場	高津市民館	
コンセプト	<p>子供たちや若い世代に映画の楽しさに触れてもらうため、時代を問わず笑って楽しめる、近年発見され修復されるまで日本では未公開であったコメディアン、チャーリー・パワーズのサイレント映画の作品を上映する。また、公開された100年前と同様に音楽の生伴奏をつけ、現在の映像とは違う世界を体感できる内容とする。</p> <p>併せて、伴奏者の指導のもと、自分で映画に音をつける参加型の時間を設け、台詞のない映画の鑑賞体験をより楽しめるものとする。</p>	
ターゲット	若年層、ファミリー層、映画ファン	
観覧料	一般：600円、小中高生：400円	
入館者数	目標：250人	実績： _____人
内 容	<p>■ 上映作品（借用3作品）</p> <p>チャーリー・パワーズ</p> <p>『たまご割れすぎ問題』（1923年）</p> <p>『ほらふき倶楽部』（1926年）</p> <p>『怪人現る』（1928年）</p> <p>■ 参加型コーナー「サイレント映画に音をつけてみよう」</p> <p>1～2分のサイレント映画に、伴奏者と来場者で音をつける。</p> <p>※参加者には楽器の持込を通知。</p> <p>伴奏者：鈴木治行（作曲家）、柳下美恵（伴奏者）ほか</p>	
関連事業	—	
主な広報	<p>(1) ポスター・チラシ：市内公共施設、川崎信用金庫、JA セレサかわさき、郵便局、</p> <p>(2) SNS：X、Instagram、Facebook</p> <p>(3) 市政だより</p> <p>(4) 川崎市 HP TOP バナー</p> <p>(5) ARIFT（旧ぱど）へのチラシ折込</p>	
効果測定	アンケート回収数 _____件（紙・web）	

(3) 教育普及事業

【教育普及②】

事業名	失われた風景よみがえる風景—多摩区の昭和—
会 期	令和7年11月11日(火)～11月17日((月)) 8:30～17:00
会 場	多摩区総合庁舎1階アトリウム
コンセプト	川崎市にゆかりのある人々が撮影した写真・映像は、当時の景観や生活の諸相を伝える歴史資料である。本展では多摩区に焦点をあて、昭和63年に着手された土地区画整理事業により大きく姿を変え往時の風景が失われつつある登戸・向ヶ丘遊園駅を中心に過去の風景を遺し、伝えるために、市民ミュージアムの収蔵写真等のデジタルデータをパネルにして展示するもの。また、地域の稲田郷土史会の協力(写真・映像提供)により、昭和初期から昭和30年代の登戸・向ヶ丘遊園駅、旧津久井道の風景も取り上げ、その変化を振り返り、記憶を掘り起こしていくことを目的とする。
ターゲット	市民 多摩区の歴史に関心のある人
参加料	無料
内 容	<p>■ 展示資料 約30点 (収蔵品20点・借用品10点) 紀伊国屋(昭和2年)、向ヶ丘遊園駅(昭和30年頃)ほか</p> <p>■ 展示構成</p> <p>① 失われた風景・よみがえる風景(展示趣旨) ② 多摩区航空写真(昭和20年代・現在) ③ 登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺の変遷 ④ 旧津久井道の記録</p>
関連事業	川崎の記録—神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわり—【多摩区編】 日 時：令和7年11月16日(日) 13:30～15:00
主な広報	(1) ポスター・チラシ：川崎信用金庫、郵便局、公共施設ほか (2) 新聞折り込み(多摩区)：読売新聞 (3) 川崎市HP TOP バナー (4) SNS：X、Instagram、Facebook (5) 市政だよりほか
効果測定	アンケート回収数 _____件(紙・web) ※集計中
その他	協力：稲田郷土史会

【教育普及③】

事業名	史跡めぐり 宮前区初山地域と本遠寺
会 期	①令和7年12月20日(土) 9:30~12:00 ②令和8年1月11日(日) 9:30~12:00
会 場	宮前区初山地域
コンセプト	例年開催している史跡めぐりについて、今回は宮前区の初山地域で開催する。 イヤホンガイドを使用した学芸員の解説のほか、行程の最後に訪れる本遠寺では、本堂にて御住職によるお寺の歴史や宮前区における江戸時代から戦後にかけての教育に関する講座を受けた後、境内の見学をする。本遠寺は、大正時代に市内初の私設図書館が開設されたことから、地域の学習の場でもあった。このような地域の史跡を巡り歴史を学ぶことで、史跡の保全活動や学芸員が史跡と関連させて解説を行う収蔵品への関心を高めるほか、当館の活動の周知を狙い実施するもの。
内 容	<p>■料 金：500円(イヤホンガイド代)</p> <p>■募集人数：30名(各回15名)</p> <p>■主な行程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初山第二公園(集合)</li> <li>・十王堂(閻魔堂)</li> <li>・庚申塔</li> <li>・馬頭観音</li> <li>・本遠寺(解散)</li> </ul>
主な広報	(1) ポスター・チラシ：川崎信用金庫、郵便局、公共施設ほか (2) 新聞折り込み(宮前区)：読売新聞 (3) SNS：X、Instagram、Facebook
効果測定	アンケート回収数 _____ 件(紙・web)
その他	協 力：本能時

【教育普及④】

事業名	社会科教育推進事業
会 期	令和7年7月～令和8年3月
会 場	申込のあった学校
コンセプト	市内の小学4年生を対象に、二ヶ領用水に関する体験学習や実物資料の見学を目的とした来館プログラム「社会科教育推進事業」を長年実施してきたが、被災による市民ミュージアムの休館後、出張授業・資料貸出・教材送付の3種類の事業として継続実施するもの。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 出張授業：当館職員が学校に出向き、校内で授業を実施。</li> <li>■ 資料貸出：クワ、蛇籠といった出張授業時に使用している資料の貸出。</li> <li>■ 教材送付：当館で作成した二ヶ領用水の歴史等をまとめた冊子を希望校に配布。(B5/12頁)</li> </ul> <p>【参考】令和6年度実績 出張授業49校、資料貸出5校、教材送付69校</p>
効果測定	<p>アンケート回収数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業_____件(紙・web)</li> <li>・資料貸出、教材送付_____件(紙・web)</li> </ul>

【教育普及⑤】

事業名	学びのサポートプログラム-学校及びその他団体向け事業- (旧スクールプログラム ※R7 より変更)
会 期	申込に応じて実施
会 場	申込のあった学校
コンセプト	学校との連携事業として、学芸スタッフが出張し、勾玉作り等の体験や職業紹介等のレクチャー等を実施し、歴史や美術作品、あるいは博物館や美術館そのものに関する知識を得る場や体験する機会を創出するもの。
内 容	<p>■主なメニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勾玉づくり</li> <li>・ゾートロープ (回転のぞき絵)</li> <li>・職業紹介 (学芸員の仕事についてのミニ講演・レクチャー) 等</li> </ul> <p>【参考】 令和6年度実績 (6校)</p> <p style="padding-left: 40px;">勾玉づくり 2校、ゾートロープ 1校、職業紹介 1校、その他 2校</p>
効果測定	アンケート回収数 指導者_____件 (紙・web)、参加者_____件 (紙・web)

### 3 資料等の調査、収集・受入、研究、修復に関する業務

#### (1) 調査、収集・受入

市民ミュージアム資料収集方針等に基づき、収集対象となる資料に関する情報を収集し、所有者等の譲渡又は寄贈等の意向の確認等、収集に関して必要となる事項について調査・折衝を実施。また、川崎市市民ミュージアム資料等収集懇談会において、専門家の意見聴取を経て、市が収集をするか否かを決定し、収集を決定した資料等については、受入れを行うとともに台帳へ登載するもの。

#### (2) 研究

収集・収蔵した資料等について、展覧会や教育普及事業等を行うため、研究等を行う。

#### (3) 修復

資料等について、今後の展覧会や上映会で活用及び適切な保管のため、修復等を行う。

### 4 広報に関する業務

#### (1) 各種広報媒体の作成と活用

各種展覧会、上映会、教育普及事業等について、チラシの作成・配布、市民ミュージアムのホームページや SNS（X、Facebook、Instagram）を通じた情報発信のほか、市政だより、市及び区等の管理するデジタルサイネージ等市広報媒体の記事調整・データ作成を実施。

##### 【掲載実績】

内訳	新聞	雑誌・ 情報誌	テレビ・ ラジオ	WEB	サイネージ ほか
展覧会	5	8	2	112	1
上映会	1	2	0	33	0
教育普及	0	0	0	12	0
その他	0	2	1	1	0

#### (2) SNS 等投稿実績（R7 年 4 月～11 月末時点）

内訳	X	Facebook	Instagram	YouTube
フォロワー数	5,518	2,157	1,335	623
投稿数	79	75	76	5

#### (3) 市民ミュージアムホームページの管理運営

市民ミュージアムのホームページについて、随時最新情報へと更新を行うなど管理運営を実施。

##### 【市民ミュージアム web 閲覧実績】

参考 R6 : 308,210 PV 、 R7 : 183,735 PV（11 月末現在）

#### (4) メディアリレーション

新聞・テレビ等での報道を通じ、展覧会やワークショップなど市民ミュージアムの活動を多くの

人に理解を深めてもらうため、随時報道発表資料を作成するとともに、各事業内容に適合した車内広告や雑誌掲載など広報を実施。また、取材対応や番組制作協力を行う。

(5) 川崎市市民ミュージアム年報及び紀要の作成

ア 年報

市民ミュージアムの事業実績のまとめとして、年度ごとに作成。

イ 紀要

学芸員達の研究の成果を各実施事業に活用できるよう毎年紀要を作成。

## 5 収蔵品の外部利用に関する業務

(1) 貸出し

市民ミュージアムに収蔵または、寄託を受けている収蔵品等について、他の博物館等への貸出しを行うもの。

貸出しにあたっては、「川崎市市民ミュージアム資料貸出し要綱」の規定に基づき、収蔵品の保存状態や貸出先の環境条件等を勘案した後、申込者との調整、著作権等権利関係及び関係書類の確認を行った上で、収蔵品等の館外貸出しを実施するもの。

(2) 特別利用

「川崎市市民ミュージアム観覧料及び特別利用等に関する要綱」の規定に基づき、市民ミュージアムに収蔵または寄託を受けている収蔵品等について、申請に応じ模写、模造、拓本、撮影、原版使用に供するもの。

## 6 ミュージアムショップの運営に関する業務

川崎市市民ミュージアムが作成した刊行物等（図録、オリジナルグッズ等）をオンラインのミュージアムショップで販売。

なお、ショップの運営及び頒布代金の収納事務については、学芸業務受託者に委託。

令和7年度 市民ミュージアム事業費 予算

【支出】

項目	予算額 (千円)
市民ミュージアム学芸業務委託	341,588
展覧会及び上映会に関する業務	21,827
かわさき市美術展に関する業務	8,723
教育普及に関する業務	1,198
広報に関する業務	5,891
その他業務	103,644
諸経費（人件費等）	200,305
市民ミュージアム学芸業務委託以外（外部倉庫賃借料、仮設事務所運営費等）	506,506
市民ミュージアム事業費 計	848,094

【収入】

項目	予算額 (千円)
財産収入（特別利用、自動販売機設置場所の貸付等）	287
寄附金	306
諸収入 （ミュージアムショップ売上料、かわさき市美術展応募料等）	1,778
合計	2,371

川崎市文化芸術振興会議規則（平成17年9月15日規則第99号）

最終改正:平成28年3月31日規則第13号

改正内容:平成28年3月31日規則第13号 [平成28年4月1日]

（趣旨）

第1条 この規則は、川崎市文化芸術振興条例（平成17年川崎市条例第8号）第9条第6項の規定に基づき、川崎市文化芸術振興会議（以下「振興会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（委員）

第2条 市民のうちから委嘱される委員は、公募によるものとする。

（会長及び副会長）

第3条 振興会議に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、振興会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第4条 振興会議は会長が招集し、会長はその会議の議長となる。

2 振興会議は、委員及び議事に関係のある臨時委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 振興会議の議事は、出席した委員及び議事に関係のある臨時委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（関係者の出席）

第5条 振興会議は、その調査審議に必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

（部会）

第6条 振興会議は、必要に応じ部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員及び臨時委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長1人を置き、部会に属する委員及び臨時委員の互選により定める。

4 部会長は、部会の事務を掌理し、部会の審議の経過及び結果を振興会議に報告するものとする。

5 部会の会議については、前2条の規定を準用する。

（庶務）

第7条 振興会議の庶務は、市民文化局において処理する。

（委任）

第8条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他振興会議の運営に関し必要な事項は、会長が振興会議に諮って定める。

附 則

この規則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第16号抄）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月31日規則第13号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会設置要綱

(趣旨)

**第1条** この要綱は、川崎市文化芸術振興会議規則（平成17年9月15日規則第99号。以下「規則」という。）第6条に基づき設置する川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会（以下「市民ミュージアム部会」という。）について、川崎市文化芸術振興条例（平成17年3月24日条例第8号。以下「条例」という。）及び規則に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

**第2条** 市民ミュージアム部会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 川崎市市民ミュージアムの事業評価に関すること
- (2) その他川崎市市民ミュージアムの円滑な運営に関すること

(組織等)

**第3条** 市民ミュージアム部会は、川崎市文化芸術振興会議（以下「振興会議」という。）の会長から指名された振興会議委員及び臨時委員によって構成する。

2 市民ミュージアム部会員の任期は、振興会議委員と同一とする。

3 任期の途中で部会員に欠員が出た場合は、振興会議会長が補欠の委員を指名するものとし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

**第4条** 市民ミュージアム部会の庶務は、市民文化局川崎市市民ミュージアムにおいて処理する。

(その他)

**第5条** この要綱に定めるもののほか、市民ミュージアム部会の運営に必要な事項は、部会長が部会に諮って定める。

**附 則**

この要綱は、令和4年10月1日から施行する。